

連載を終えて

今回の琵琶湖疏水記念館をもって「博物館で土木を学ぶ」の連載を終了する。

本連載では、北は青函トンネルから南は雲仙岳まで、全国12の博物館を取り上げた。連載の冒頭で紹介したとおり、日本には約4000もの博物館があるというから、ごく一部を取り上げたに過ぎないが、読者諸氏に訪ねてみたいと思わせる博物館は登場しただろうか。

私が個人的に興味を引かれたのは狭山池博物館(第4回)の堤体断面の展示であった。狭山池の改修に熱意を注いだ技術者たちの功績が芸術品のごとく展示されている様子に感動した。

近頃は展示品の見せ方に力を入れている博物館も多い。財政難のおり、社会基盤施設に付随してその技術や意義を一般に伝える事業にまでは手が回らない場合も多い。しかし博物館を訪ねて、そこにかかわった人の思いが来場者と共有できてこそ、その事業は長く地域に息づいていくことを確信した。地域社会が博物館を支えるようなくみも今後多く生まれてくるだろう。

連載にあたっては各博物館の学芸員、担当者の方に大変お世話になった。改めて御礼を申し上げ、連載を締めくくりたい。

(松田 曜子)

表1 博物館で土木を学ぶ 連載一覧

掲載号	題 目
第1回	鉄道博物館(埼玉県)
第2回	福島町青函トンネル記念館(北海道)
第3回	黒部川電気記念館(富山県)
第4回	狭山池博物館(大阪府)
第5回	名古屋海洋博物館(愛知県)
2009年	第6回 瀬戸大橋記念館(香川県)
	第7回 雲仙岳災害記念館(長崎県)
	第8回 キッザニア甲子園(兵庫県)
	第9回 横浜都市発展記念館(神奈川県)
	第10回 信濃川大河津資料館(新潟県)
	第11回 伊能忠敬記念館(千葉県)
	第12回 琵琶湖疏水記念館(京都府)

編集企画主査 松田 曜子
編集企画担当 S 班

